

サテライトセッション①の感想 53人参加 感想記入8人

歌川学産総研主任研究員の講演「気候危機・エネルギー問題と国立試験研究機関の役割」についての感想を記入ください。

◆今、一番具体的なデータを提供してくださっている歌川さんの講演はとてもわかりやすかったです。

◆難しい内容ですが、気候変動に対応するには大事な議論と感じました。ありがとうございます。

◆非常に勉強になった。ただし、削減方法のアクションの効果の大小がよくわからず、また観測ができていない因子については何の意味もなくなることになることから、実質的な温暖化よりも政策的な試みになっているように感じました。

◆温暖化への対応について、幅広い視点からの講演でものすごく良かったと思います。さらに様々な研究機関の仕事が温暖化問題への対応に寄与するという展望がしめされ、国研の基盤的な研究がこの分野においても重要なのだということがわかりました。国や自治体の政策立案に研究機関の成果が一層生かされるような社会の実現が求められると思いました。

◆大変有意義なお話でした。本当にありがとうございました。国立試験研究機関の役割も国や自治体の取り組みの方向性もわかりやすかったです。皆様に聞いてほしい内容でした。

◆国研の役割、特に、官との距離感（を保つ）ことについて痛快とも言えるほど大変参考になりました。中長期計画のどの部分でどのような体制でご講演の研究が進められているのか質問すればよかったですと後から思いました。

◆本日はいろいろと貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。材料研究に携わる者としては、発電量に対する2/3が排熱で破棄されているというデータについて、廃熱利用や電力変換などの効率化を進める材料の重要性を改めて考えるとともに、熱機関の理論から考察される効率限界に対してどこまで近づけるのかを見据える必要があると考えました。また、国研の役割として、専門家間のコーディネーターを挙げていらっしゃいました。個人的な見解ですが、エネルギーという分野は国家間や業界間など様々な立場の人々の利害対立が起こりやすい領域であり、互いに自己に有利な論拠を用いて議論がぶつかりやすいと考えます。日本における市民の視点は、行政は経済的視点から企業側に立ちがちとの見方も少なくないと考えます。学会など行政から独立した機関が中立的な情報発信を担うべきと思いますが、専門家間でも意見が絞られず、市民が混乱するのはコロナ禍の現在を見ても明らかで、こうした専門家の意見をまとめて社会へ発信する役割を国研が担えばよい、とのご意見には賛成です。こうした市民からも行政からも信頼できる情報発信が行えれば、国研の存在意義もまた増えるものと思います。

◆現在の機構の状況と研究機関の今後の役割がわかりやすかった。

国立研究機関に関する労働組合（学研労協と国公労連）の今後の取り組みについて、要望・意見を記入ください。

◆気候危機については多くの市民と専門家が一緒になって考えていかなければいけない課題なので、今後も様々な問題についてオンライン学習会を行ってほしいです。ありがとうございました。

◆講演にてチャットで書かせて頂きました。

◆労働条件に偏らず、このようなトピックも広がり設ける観点から良い取り組みだと思いますので、今後も講演の候補に入れておいて欲しいと思いました。

貴重な企画・準備に心から感謝申し上げます。

◆もしも可能であれば、動画をアップしていただくと地方議員の方々などにおすすめできるのでは、ありがたいです。

◆申し訳ございませんが初めて国研集会サテライトセッションに参加させて頂いたのですが、これまで参加してこなかったことを反省しています。講演者探しもご講演自体も相当大変なお察ししてしまいつつ、今日のようなサテライトセッションの充実化を希望します。このような盛況な研究所横断的イベントが組合にはあるよ、と非組合員に宣伝・勧誘する材料になりそうです。

◆気候変動などの切り口で、研究機関の重要性をとなえて行ってほしい。